



所長挨拶

ご支援のお願い

平素より、核融合科学研究所の活動に対しご支援を賜り、誠にありがとうございます。

本研究所は、核融合科学の学術研究を推進する中核的な大学共同利用機関として、1989年5月29日に名古屋大学の構内において創立されました。1990年には、現在の土岐市内のキャンパスにおいて、超伝導プラズマ実験装置である大型ヘリカル装置（LHD）の建設を開始しました。LHDは、研究所が1997年7月の土岐市内への移転を終えた、同年12月に8年の建設期間を経て完成し、1998年3月に最初のプラズマ実験に成功しました。設立以来、本研究所は、数々の重要な研究成果を挙げ、名実ともに世界の核融合科学のフロントランナーとしてプラズマ物理・核融合工学の発展に貢献し、2019年5月29日には創立30周年（土岐市移転22周年）を迎えました。

この間、地域の方々のご理解のもと、2017年3月からLHDにおいて重水素実験を開始し、核融合エネルギーの実現に必要な条件の一つであるイオン温度1億2,000万度を達成することができました。これも、ひとえに皆様からの格別のご支援とご高配の賜と深く感謝し厚く御礼申し上げます。今後も、これまでに挙げた研究成果と培われた研究力を礎として、更に幅広く学術研究を展開していく所存です。

さて、本研究所は創立30周年の節目を迎えるに当たり、2018年9月にプラズマ物理・核融合工学の未来に向けた取組みの一つとして「核融合科学研究所核融合エネルギー研究推進基金」を創設しました。本基金は、個人及び法人の皆様からの篤志による寄附金を原資として、人材育成事業や、地域・産学等連携支援事業、研究環境等の一層の充実を図る施設等整備事業、研究成果等を社会に発信するアウトリーチ活動等を行うことを目的としております。

皆様方におかれましては、本研究所の活動によってプラズマ物理・核融合工学が更に発展し、自然の理解が一層深まり、社会の発展に貢献する成果が生み出されるために、是非ともこの趣旨にご賛同いただき、引き続き格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2022年4月
大学共同利用機関法人自然科学研究機構
核融合科学研究所長
吉田善章